

BOC は 24 日に追加利上げか

- ◆今週の EU 首脳会議、英 EU 離脱交渉に進展はなし
- ◆11 月の臨時首脳会議開催も見送り、「合意なき離脱」への警戒感続く
- ◆BOC、24 日の政策会合で追加利上げに踏み切るか

予想レンジ

ポンド円 143.00-150.00 円

加ドル円 84.50-89.50 円

10 月 22 日週の展望

今週の欧州連合 (EU) 首脳会議では英国の EU 離脱交渉について協議したが、EU 首脳らは交渉の進展が不十分と判断し、最終合意を目指した 11 月の臨時首脳会議の見送りを決定した。今回の首脳会議で、英国との将来の関係を定めた「政治宣言」の草案を協議し、11 月中旬に正式合意の舞台として臨時の首脳会議を開催する段取りだったが、協議は今後も継続することになった。最も難航しているアイルランドの国境問題は平行線のままで、EU は英国に現状を打開する代替案を求めたが、メイ英首相は提出しなかった。「合意なき離脱」警戒感は根強く、来週もポンドは上値の重い動きが見込まれる。

EU 首脳会議ではメイ首相が退席後に「合意なき離脱」を迎えた場合への対応についての協議も行った。アイルランドの国境管理問題で、EU 側は域内で関税がかからない EU の関税同盟に北アイルランドだけを残すことを提案しているが、英国は国内の分断を避けるために英国全体が一時的に関税同盟に残り、関税をめぐる新ルールが固まってから脱退することを望んでいる。今後数週間、協議を続けるが、お互いに相手側の譲歩を求めている。英・EU 双方の議会での批准手続きにかかる時間を考慮すれば、12 月の定例 EU 首脳会議がぎりぎりの交渉期限となる。EU のトウスク大統領は「合意がないまま英国が離脱する可能性がかってないほど高まっている」と厳しい見方を示した。

今週の英経済指標は強弱まちまち。6-8 月の失業率は 4.0%で横ばい、40 年ぶりの低水準を維持し、平均週間賃金（賞与除く）は前年比+3.1%と約 10 年ぶりの大幅な伸びとなった。一方、9 月消費者物価指数 (CPI) は前年比+2.4%と市場予想を下回り 8 月の+2.7%から鈍化した。来週は注目の指標発表は予定されていない。もっとも、離脱をめぐる展開を見守っているなか、足もとの指標は金融政策変更の思惑につながっていない。

加ドルは底堅い動きか。来週の 24 日にカナダ中銀 (BOC) の金融政策会合の結果が公表される予定。今回の会合で BOC が 7 月以来の追加利上げに踏み切ると見込まれている。9 月の会合では、インフレ目標を達成するためには一段の利上げが必要になるとの認識を示した。懸念材料であった北米自由貿易協定 (NAFTA) 再交渉で米・カナダが合意しており、声明文の内容が注目される。

カナダは 7 月、米国の鉄鋼・アルミ関税への報復措置として、関税を発動したが、16 日に米国からの鉄鋼・アルミニウム輸入に課す 25%の関税対象品を大幅に減らした。米製鉄鋼製品の依存度が高いカナダの自動車セクターには当面の安心材料となる。

10 月 15 日週の回顧

ポンドは英経済指標の結果を受けた反応は一時的にとどまり、離脱交渉の不透明感が続くなか、上値は重く、ポンドドルは 1.30 ドル近辺、ポンド円は 146 円割れまで押し戻された。加ドルは追加利上げ期待を背景に買いが先行するも、原油相場の下落も重しとなり、ドル/加ドルは 1.30 加ドル後半まで切り返し、加ドル円は 85 円台に押し戻された。(了)